

The Tokyo-Cambridge Gazette

In Search of Japan's Global Strategies

2010年秋から筆者の活動の中心を東京に移した。ケンブリッジの研究者との関係を維持しつつも、米中両国、東南アジア、そして欧州の研究者との関係を強化し、グローバルな視点から読者諸兄弟と共に日本の将来を考えてみたい。従ってタイトルも *Tokyo-Cambridge Gazette* に変更する。

『東京=ケンブリッジ・ガゼット：グローバル戦略編』

第183号 (2024年7月)

キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 栗原 潤

彼れを知りて己れを知れば、百戦して殆(あや)うからず。

彼れを知らずして己れを知れば、一勝一負す。

彼れを知らず己れを知らざれば、戦う毎に必ず殆(あや)うし。

Know the enemy and know yourself; In a hundred battles you will never be in peril.

When you are ignorant of the enemy but know yourself; Your chances of winning or losing are equal.

If ignorant both of your enemy and of yourself; You are certain in every battle to be in peril. (Sunzi/Sun Tzu)

小誌は大量の資料を網羅的かつ詳細に報告するものではない—筆者が接した情報や文献を①マクロ経済、②資源・エネルギー、環境、③外交・安全保障の分野に関し整理したものである。紙面や時間の制約に加えて筆者の限られた能力という問題は有るが、小誌が少しでも役立つことを心から願っている。

今月号「目次」

1. *Tokyo-Cambridge Gazette*: グローバル戦略編第183号
2. 情報概観—①マクロ経済、②資源・エネルギー環境、③外交・安全保障
3. 編集後記

1. *Tokyo-Cambridge Gazette*: グローバル戦略編第183号

6月は人間と機械の協働作業に際して必要な安全技術に関する会合のために約半月間欧州に滞在した。

6月7-22日、欧州4カ国(独芬瑞仏)を訪れた。通常筆者の出張は独りで友人達との意見交換が中心だ。だが、今回は日本の技術者の方々と共に各国を訪れる事が中心となった出張で、彼等と筆者、双方の関心事項の融合が主目的だった。即ち筆者の関心事項—経済社会における robot を含む Human-Machine Interaction (HMI)—と彼等が目指す「働く人々の安全・健康・ウェルビーイングに関する国際標準化」との融合だ。

技術者集団の中心的人物はセーフティグローバル推進機構(IGSAP)や日本ロボット工業会(JARA)の理事を務める藤田俊弘氏だ。働く人々の安全(safety)・健康(health)・ウェルビーイング(Well-being)に関する国際標準化を目指す同氏は、デュッセルドルフ、ヘルシンキ、ジュネーブで日本の役割と国際協力の必要性を専門家達に対して語った。またフィンランドのタンペレで開催された国際会議では、同氏に加えて筆者は、産業技術総合研究所(AIST)の谷川民生教授等、そしてトヨタや三菱電機等の専門家達と共に参加して意見交換を楽しんだ。

欧州の企業では労働者の“Sicherheit, Gesundheit und Wohlbefinden (safety, health and well-being の独語版)”を重視する活動が活発だ。例えば Volkswagen や Roche 等の大企業も推進活動を積極的に実施している。今回、藤田氏は専門組織—例えば独法定災害保険(DGUV)やその傘下の労働安全研究所(IFA)、またヘルシンキの芬蘭労働衛生研究所(FIOH)、そしてジュネーブの世界労働機関(ILO)や世界保健機関(WHO)—との human networks を一段と強化する事に尽力された。その中でも ILO のシルベール・ウングボ事務局長が今年の video message 送付と来年の訪日を約束された事は特筆に値する。ジュネーブでの会合を終えた後、Four Seasons Hotel 屋上の和風レストラン(Izumi)では、米国での安全問題を討議する団体—全米安全評議会(NSC)—に関係する米国の人と隣席に着き、幸運にも今回の欧州出張で偶然 global networks が更に拡大した。

Düsseldorf と Tampere で技術者達の研究を聴講した後、Helsinki の FIOH で15分間意見を述べる機会を頂いた(次の2参照)。筆者の関心事は経済的・日常的に技術者・労働者が幸せになるため、技術者の知識を生産現場での成果へと結び付ける“組織・制度づくり”だ。換言すれば旧弊固陋な“縦割り(silo)構造”を革新し、技術力を効率的に活用し事業化へ向かうための“組織力”が不可欠なのだ。この“組織力”の要素として、①技術者集団には技能とリーダーシップ、②経営組織・社会制度には時代に適合した形に組織・制度を再編・創出する能力とリーダーシップが必要となる。そしてこのためには、どうしてもシュンペーター先生が唱えた“行動の人(Man of Action/Mann der Tat)”が求められる事を語った。

Robot を含む mechanization は目覚ましい。Robot の役割は工場・倉庫に止まらず、建設・農業・教育・医療・警察等の現場でも拡大している(p.4の図1参照)。このため人間と機械との協働作業が増加し、それ故に“新たな安全対策”が重要となり、“協調安全(collaborative safety)”という概念が生まれてきたのだ。この現象を長年観察してきた藤田氏は、「日本の安全技術者や安全管理者は、日本で全く世界潮流の安全国際会議が開催されないのが肌感覚で世界のトップの考えを知る機会がなく、大変不幸で取り残されている状況であり、何とか打開しなければいけない」と述べている。そして今、藤田氏は Tampere での国際会議(SIAS2024)を踏まえて、2年後に日本で SIAS2026 を準備している。その前に同氏は本年11月中旬に世界の専門家達を日本に招き、2025年 EXPO2025 ではウングボ ILO 事務局長等が参加する行事を予定している。更に、SIAS2026 の後も日独が中心となって国際標準化に向けた会合を藤田氏は大阪で毎年計画している(p.5の図2(Vision Zero Journey)参照)。筆者は、藤田氏の考えをうかがっている時に、彼に向かい「あなたは本当に a Schumpeterian man of innovative action だと思いますよ」と語った次第だ。

国際政治はカオス状態だ—選挙を控えた欧州と米国、総統選挙を終えた台湾が直面している危機に関し、友人達と情報交換の日が続いている。

冒頭で触れた出張中、日常の情報収集が出来ず、小誌で読者諸兄弟に提示する情報が少ない事を申し訳なく思っている。だが、出張の後半(Genève と Paris)には友人達と有益な情報交換が出来た事を喜んでいて、周知の通り、ロシアによるウクライナ侵攻に関し人々の見解は様々だ。6月17日、英国人歌手ロッド・スチュアートがライブツイヒ公演中、ウクライナ支援・プーチン批判をして観衆から批判されたと報じられた(次の2参照)。筆者は「ドイツには AfD 等“親プーチン派(Putinversteher)”がいる事を忘れてはならない」と欧州の友人達に語った次第だ。

欧州でも友人達との意見交換の中で中心は中国問題だった。激化する米中摩擦に関する書籍に関して友人達と刺激的な知的会話を楽しんだ。それらの書籍とは①Virginia 大学(UVA)のコーブランド教授による本(A World Safe for Commerce, Feb. 2024)「安全な商業世界」や②リスマイヤー Harvard Business School(HBS)准教授の本(Precarious Ties: Business and the State in Authoritarian Asia, Sept. 2023)「不安定な関係」、また③多才な Cyber 技術専門家アルペロヴィッチ氏の本(World on the Brink: How American Can Beat China in the Race for the 21st Century, Apr. 2024)「世界大争い」等である。

パリは、第1回印象派展(Première exposition des peintres impressionnistes)の百周年、そしてノルマンディー上陸80周年(D-Day: 80 ans du débarquement de Normandie)を祝った直後だったが、友人達とは仏国政治の混乱状態について語り合った(次の2参照)。また D-Day 直前における駐独日本大使館の連合軍に対する“意図せざる”貢献について議論した。戦史に詳しい人はご存知の通り、連合軍は上陸前に様々な形で敵(独軍)に関する情報収集と偽情報の拡散を実施した。駐独日本大使館はこの時、独軍側の情報に関し連合軍側に多大なる貢献をした—①大島浩大使が1943年秋に、また伊藤清一陸軍大佐が同年末に、更には②小島秀雄海軍少将が D-Day 直前の1944年4月に、仏西岸に在る独軍要所を訪れ、その詳細を暗号電報で東京に送った。それらを Bletchley Park の英国諜報部門が直ちに解読して、連合軍の作戦計画に参考資料として提出した。パリの友人が「マーシャル米陸軍参謀総長が語ったように連合軍側の作戦に“大島情報”は非常に役立った」と満足気に語った時、筆者は複雑な気持ちになってしまった。そして「今回の出張で君達とは、カフカ没後百周年で英訳新版の『日記(The Diaries of Franz Kafka, 2023)』やモネの伝記(Monet: The Restless Vision, 2023)について語り合う事を期待していたのに、政治と戦争の話が中心となった事が残念だ」と話した次第だ。

欧州出張中、現地での異常気象に驚いた。特にフランスでは著しい南北地方間の気温差を記録していた。

出張中、幸いにも天気は恵まれたが、欧州各地での異常気象現象が報じられていた。確かにジュネーブの昼の蒸し暑さは厳しいものだった。約3ヵ月前の4月7日、筆者は『日本経済新聞』の記事を読んで本当に驚いた—「ワイン産地の9割、気候変動で存続危機 仏研究チーム」。ポルドー国立農業科学学術院(Ecole nationale supérieure des sciences agronomiques de Bordeaux/Médecine)の研究者が21世紀末までにワイン産地の約9割が気候変動によって生産継続が不可能になると予想したとの報道であった。勿論、21世紀末まで生きる訳ではないが、産地が次々に変わっていく事は非常に残念な事だ。このために、友人達と早速「今のうちに!!」という理由をこじつけて、「あせりつつ(?)」、Pavillon Rouge du Château Margaux や Château d'Yquem で乾杯した次第だ。気候変動のワインへの影響は既に現れている。コロナ禍前の訪英時、現地の友人達と飲んだワインは英国産だった。この様子では「現在の筆者のワインの知識も気候変動に伴い必ず“陳腐化”する」と観念した。

The Tokyo-Cambridge Gazette (In Search of Japan's Global Strategies)

No. 183 (July 2024)

民主主義は個人の自由の領域を広げるが、社会主義は個人の自由を制限する。民主主義は想定可能な価値観の全てを個人に認めるが、社会主義は各人を総括して単一の成員と見做す。民主主義と社会主義は一つの例外を除いて共通する言葉を持たない。その一つは平等だ。しかし、平等という言葉にも違いに留意すべきだ。民主主義は自由の中に平等を求めるのに対し、社会主義は制約と隷従の中に平等を求めるのだ。
(アレクシ・ド・トクヴィル)

Democracy extends the sphere of individual freedom, socialism restricts it. Democracy attaches all possible value to each man; socialism makes each man a mere agent, a mere number. Democracy and socialism have nothing in common but one word: equality. But notice the difference: while democracy seeks equality in liberty, socialism seeks equality in restraint and servitude.

[La démocratie étend la sphère de l'indépendance individuelle, le socialisme la resserre. La démocratie donne toute sa valeur possible à chaque homme, le socialisme fait de chaque homme un agent, un instrument, un chiffre. La démocratie et le socialisme ne se tiennent que par un mot, l'égalité; mais remarquez la différence: la démocratie veut l'égalité dans la liberté, et le socialisme veut l'égalité dans la gêne et dans la servitude.]
(Alexis de Tocqueville)

2. 情報概観 紙面の制約上、原則、参考になると筆者が判断した最新情報のみを掲載し解説や関連資料は一切省略。

マクロ経済: Macroeconomics—Books, Papers, and Articles

Brollo, Fernanda *et al.*, 2024, "Broadening the Gains from Generative AI: The Role of Fiscal Policies," Staff Discussion Note SDN/2024/002, Washington, D.C., International Monetary Fund (IMF), June.
Dao, Mai *et al.*, 2024, "Drivers of Post-COVID Private Consumption in the U.S.," WP/24/128, Washington, D.C.: International Monetary Fund (IMF), June.
Herrero, Alicia Garcia, 2024, "China's Aging Problem Will Be Much More Serious When Urbanization is Completed," *China Leadership Monitor*, Summer 2024 Issue 80, Stanford, CA: Hoover Institution, Stanford University, June.
Moscow 24 («Москва 24»), 2024, «Путин заявил, что Россия уже обогнала Японию и Германию по объему экономики [Putin said that Russia has already overtaken Japan and Germany in terms of economic size]», June 7.
Wall Street Journal (Betsy McKay and Georgi Kantchev), 2024, "Putin's Existential Problem: Not Enough Russians," June 6.

マクロ経済: Macroeconomics—Conferences, Workshops and Seminars

June 17: (a hybrid event, London) Chatham House: "Fixing Global Economic Governance."
June 26: (Washington, D.C.) Peterson Institute for International Economics (PIIE): "Migration Restrictions and Damages to the US Economy."

資源・エネルギー、環境: Resources, Energy, and Environment—Books, Papers, and Articles

Elkerbout, Milan, 2024, "Leakage in Climate Policy Discourse," Issue Brief 24-05, Washington, D.C.: Resources for the Future (RFF), June.
RE100, 2024, "Japan Energy Security," June 24.
United Nations Development Programme (UNDP), 2024, "UNTAPPED: Collective Intelligence for Climate Action," New York, April.

資源・エネルギー、環境: Resources, Energy, and Environment—Conferences, Workshops and Seminars

June 28: (an online event, Washington, D.C.) Center for Strategic and International Studies (CSIS): "Statistical Review of World Energy 2024."

外交・安全保障: Diplomacy and National Security—Books, Papers, and Articles

Arnold, Sven and Gaspard Schnitzler, 2024, „Für einen Neustart der deutsch-französischen Kooperationsgremien im Bereich Verteidigung“, Forschungsgruppe Sicherheitspolitik, Arbeitspapier 2024/Nr. 01, Berlin: Stiftung Wissenschaft und Politik (SWP), June.
Associated Press (AP) (Jim Gomez), 2024, "Swedish Defense Chief Says Actions against Philippines in South China Sea Threaten Global Security," June 7.
Breaking Defense (Lee Ferran), 2024, "NATO Two-star Calls for 'Cultural Change' for OSINT for Military Ops," June 20.
British Broadcasting Corporation (BBC) (Jake Lapham), 2024, "David Cameron Falls Victim to Hoax Video Call," June 8.
Center for Strategic and International Studies (CSIS), "Hanoi in High Gear: Vietnam's Spratly Expansion Accelerates," Asia Maritime Transparency Initiative, Washington, D.C., June 7.
Chinese Government, Zhōnghuá Rénmín Gònghéguó Guówùyuan Táibàn (Taiwan Affairs Office of the State Council of the People's Republic of China/中华人民共和国国务院台办), 2024, "Guówùyuan Táibàn Xīnwén Fābùhuì Jílù [Excerpts from the press conference of the Taiwan Affairs Office of the State Council/国务院台办新闻发布会辑录]," June 26.
Cozad, Mark *et al.*, 2024, "Future Scenarios for Sino-Russian Military Cooperation: Possibilities, Limitations, and Consequences," Santa Monica, CA: RAND Corporation, June.
Daly, Robert and Robert Litwak, 2024, "How to Manage and De-risk an Emerging Cold War II with China," *Bulletin of the Atomic Scientist*, June 27.
Dayant, Alexandre *et al.*, 2024, "Southeast Asia Aid Map 2024 - Key Findings Report," Sydney: Lowy Institute, June.
Erästö, Tytti, 2024, "Reducing the Role of Nuclear Weapons in Military Alliances," Solna: Stockholm International Peace Research Institute (SIPRI), June.
Erästö, Tytti *et al.*, 2024, "Navigating Security Dilemmas in Indo-Pacific Waters: Undersea Capabilities and Armament Dynamics," Solna: Stockholm International Peace Research Institute (SIPRI), June.
Euronews.com, 2024, "Rod Stewart Boored by German Crowd for Ukraine Support," June 17.
Financial Times (Sally Hickey), 2024, "Sunak Apologises for Leaving D-Day Commemorations Early," June 7.
Financial Times (James Kyngé), 2024, "Beijing's New World Order," June 8.
France24 (Romain Brunet), 2024, «La stratégie "moi ou le chaos" d'Emmanuel Macron ne convainc plus», June 26.
Gosling, Luke, 2024, "Deterring at a Distance: The Strategic Logic of AUKUS." Sydney: Lowy Institute, June 24.
Hogeveen, Bart *et al.*, 2024, "Negotiating Technical Standards for Artificial Intelligence: A Techdiplomacy Playbook for Policymakers and Technologists in the Indo-Pacific," Policy Report, Canberra: Australian Strategic Policy Institute (ASPI), June.
Kang, Kyeong Ho (강경호) and HyunJung (Henry) Kim (김현정), 2024, "Assessing the Biochemical Threats of North Korea's 'Trash Blooms' Provocations," Seoul: Institute for National Security Strategy (INSS) (국가안보전략연구원), Issue Brief, Vol. 109, No. 6 (June), pp. 1-9.
Kommersant (Коммерсантъ), 2024, «Россия и Северная Корея подписали Договор о всеобъемлющем стратегическом партнерстве [Russia and North Korea signed the Comprehensive Strategic Partnership Treaty]», June 19.
Le Monde (Laurent Telo *et al.*), 2024, «Manifestations contre l'extrême droite: entre vertige et volonté de se battre», June 16.
Mastro, Oriana Skylar *et al.*, 2024, "Encounters and Escalation in the Indo-Pacific: Perspectives on China's Military and Implications for Regional Security," Special Report No. 108, Seattle, WA: National Bureau of Asian Research (NBR), May.
Mead, Walter Russell, 2024, "AI and the Art of War in Ukraine," *Wall Street Journal*, June 3.
Pettyjohn, Stacie *et al.*, 2024, "Swarms over the Strait: Drone Warfare in a Future Fight to Defend Taiwan," Washington, D.C.: Center for a New American Security (CNAS), June.
Pravda (Правда), 2024, «Удары ракетами США по РФ вызовут решение "Атакуем!" [US missile strikes on the Russian Federation will cause the decision "Let's attack!"]», May 31.
Reuters (Neil Jerome Morales), 2024, "Philippines Asserts Security Independence amid South China Sea Tension," June 8.
Sabandze, Natalie *et al.*, 2024, "China-Russia Alignment: A Threat to Europe's Security," Berlin: Mercator Institute for China Studies (MERICS), June.

徳を以て人に分かち、之を聖と謂ふ。
財を以て人に分かち、之を賢と謂ふ。

(莊子)

He who shares his Virtue with others is called a Sage. He who shares his wealth with others is called a Wise Man.
[以德分人謂之聖、以財分人謂之賢。]

(Zhuāngzǐ/莊子)

- Tagesschau, 2024, „Ukraine darf deutsche Waffen auch in Russland einsetzen“, May 31.
United States Government, Department of Defense (DoD), Defense Innovation Unit (DIU), 2024, “U.S. and Singapore Sign Defense Innovation Cooperation Memorandum of Understanding,” Mountain View, CA, May 31.
Wall Street Journal (Doug Cameron and Micah Maidenberg), 2024, “America Is Getting Ready for Space Warfare [美国为潜在太空战争做准备, 寻求抢占‘终极制高点’],” May 27.
Wall Street Journal (Ryan Dubé and James T. Aredy), 2024, “A New Chinese Megaport in South America Is Rattling the U.S. [中国在南美新建巨型港口, 令美国后背发凉],” June 13.
Wang, Howard *et al.*, 2024, “China’s Growing Risk Tolerance in Space: People’s Liberation Army Perspectives and Escalation Dynamics,” Santa Monica, CA: RAND Corporation, June.
Washington Post (Josh Rogin), 2024, “The U.S. Military Plans a ‘Hellscape’ to Deter China from Attacking Taiwan,” June 10.
Washington Post (Joyce Sohyun Lee and Michelle Ye Hee Lee), 2024, “Russia and North Korea’s Military Deal Formalizes a Bustling Arms Trade,” June 22.

外交・安全保障: Diplomacy and National Security—Conferences, Workshops and Seminars

- June 6: (an online event, London) Chatham House: “Beyond the Ballot: Implications of the 2024 European Elections.”
June 11~12: (Berlin) Ukrainian Government: “The Ukraine Recovery Conference 2024.”
June 13: (Washington, D.C.) Congress, U.S.-China Economic and Security Review Commission (USCC): Hearing on “China’s Stockpiling and Mobilization Measures for Competition and Conflict.”
June 15~16: (Bürgenstock Resort, Switzerland) (Swiss Government, Federal Department of Foreign Affairs (FDFA) (Eidgenössisches Departement für auswärtige Angelegenheiten (EDA)): “The Ukraine Peace Summit.”
June 17: (a hybrid event, London) Chatham House: “Can America Lead the West?”
June 17: (an online event, Washington, D.C.) Brookings Institution: “American Democracy Is under Threat. How Do We Protect It?”
June 14: (an online event, Washington, D.C.) Center for Strategic and International Studies (CSIS): “The State of Russia’s Defense Industry After Two Years of War and Sanctions.”
June 25~27: (Dalian (大连)) World Economic Forum (WEF): “The Annual Meeting of the New Champions 2024—Next Frontiers for Growth (新领军者年会聚焦新经济增长模式).”
June 27: (Atlanta) Cable News Network (CNN): “The First Presidential Debate.”

その他—Information in Other Fields

- Bloomberg (Shawna Kwan and Low De Wei), 2024, “A \$100 Billion Bet on China’s Economy Sours as Warehouses Empty,” June 26.
British Broadcasting Corporation (BBC) (Kelly Ng), “China Honours Woman Who Died Saving Japanese Family,” June 28.
Chinese Government, Ministry of Commerce (MOFCOM) (商务部), 2024, “Shāngwùbù Hàiguān Zǒngshù Zhōngyāng Jūnwèi Zhuāngbèi Fāzhānbù Gōnggào 2024-nián Dì-21-hào Guānyú duì Yǒuguān Wùxiàng Shìshì Chūkǒu Guǎnzhi de Gōnggào [Announcement No. 21 of Year 2024. Ministry of Commerce, General Administration of Customs, and Equipment Development Department of the Central Military Commission, Implementation of Export Controls on Related Items/商务部 海关总署 中央军委装备发展部公告 2024 年第 21 号 关于对有关物项实施出口管制的公告],” May 30.
MIT Technology Review (Will Douglas Heaven), 2024, “Why Does AI Hallucinate?” June 18.
Mollick, Ethan, 2024, *Co-Intelligence: Living and Working with AI*, New York: Portfolio, April.
Mullaney, Thomas S., 2024, *The Chinese Computer: A Global History of Information Age*, Cambridge, MA: MIT Press, May.
Register (Simon Sharwood), 2024, “Japanese Vid-sharing Site Niconico Needs Rebuild after Cyberattack,” June 11.
Reuters (Alessandro Diviggiano), 2024, “In China, AI transformed Ukrainian YouTuber into a Russian,” June 21.
Reuters (Lisa Barrington and Jeslyn Lerh), 2024, “Singapore Port Congestion Shows Global Ripple Impact of Red Sea Attacks,” June 26.
Saalman, Lora *et al.*, 2024, “Cyber Risk Reduction in China, Russia, the United States and the European Union,” Solna: Stockholm International Peace Research Institute (SIPRI), June.
United Nations Conference on Trade and Development (UNCTAD), 2024, “World Investment Report 2024: Investment Facilitation and Digital Government,” Geneva, June.
Wall Street Journal (Heather Somerville), 2024, “Blacklisted Chinese Companies Rebrand as American to Dodge Crackdown [与美国制裁打游击: 揭秘‘黑名单’中企换壳记],” May 29.
Zhōngguó Qìchē Qūshiwǎng/Zhongguo Qiche Qushiwang («中国汽车趋势网»), 2024, “Chóngqìng Lùntán gǔn: Bìyádi Wǎng Chuánfú: Bùbì Jiāolù, Jǐjī Yǒngbào ‘Juǎn’ [China Auto Chongqing Summit: BYD’s Wag Chuanfu said “Don’t be anxious, embrace the ‘volume’ strategy”/重庆论坛 | 比亚迪王传福: 不必焦虑, 积极拥抱‘卷’],” June 7.
Event: June 12~13: (Tampere, Finland) VTT (VTT Technical Research Centre of Finland): “The 11th International Conference on the Safety of Industrial Automated Systems (SIAS) 2024.”
Event: June 14: (Helsinki) Finnish Institute of Occupational Health (HIOH): “Vision Zero Approaches and Best Practices Globally: Japan, Denmark, Finland.”
Event: June 18: (an online event, Piscataway, NJ) IEEE SA (Standard Association): “Clinical IoT Data and Device Interoperability with TIPPSS for Remote Subject Monitoring in Clinical Trials.”

3. 編集後記

Washington Post 紙の 6 月 10 日付記事で言及された米インド太平洋軍司令官の言葉に驚いている。

記事の中のバスコ司令官の言葉とは、台湾有事の際「極秘の戦闘能力を援用して、台湾海峡を無人の地獄絵図(筆者注: 无人地狱)に変えてみたい(I want to turn the Taiwan Strait into an unmanned hellscape using a number of classified capabilities)」と語り、「米軍は数千もの無人の潜水艦・水上艦艇、そしてドローンに現地に派遣し溢れさせる(the U.S. military would deploy thousands of unmanned submarines, unmanned surface ships and aerial drones to flood the area)」事に触れた。

これに対して中国の国務院台湾事務弁公室は 6 月 26 日に資料を公表し、朱凤莲報道官が「米国内の一部反中勢力は、… 現在もまた台湾を“地獄”に変えると騒ぎ出しており、非常に危険な信号を発している(美方一些反华势力…又鼓噪将台海变成“地狱”, 传递出十分危险的信号)」と語った事に触れている。

恐ろしい言葉の応酬! また小誌冒頭で触れた unmanned machines が平和と繁栄でなく戦争のために使われる! 純真な心の将兵・一般国民がこうした言葉に惑わされて軽挙妄動に走らない事を願うばかりだ。 以上

(編集責任者) 栗原 潤

キャンニングローバル戦略研究所 研究主幹

〒100-6511 東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸の内ビルディング 11 階 Tel: +81-(0)3-6213-0550 (代)

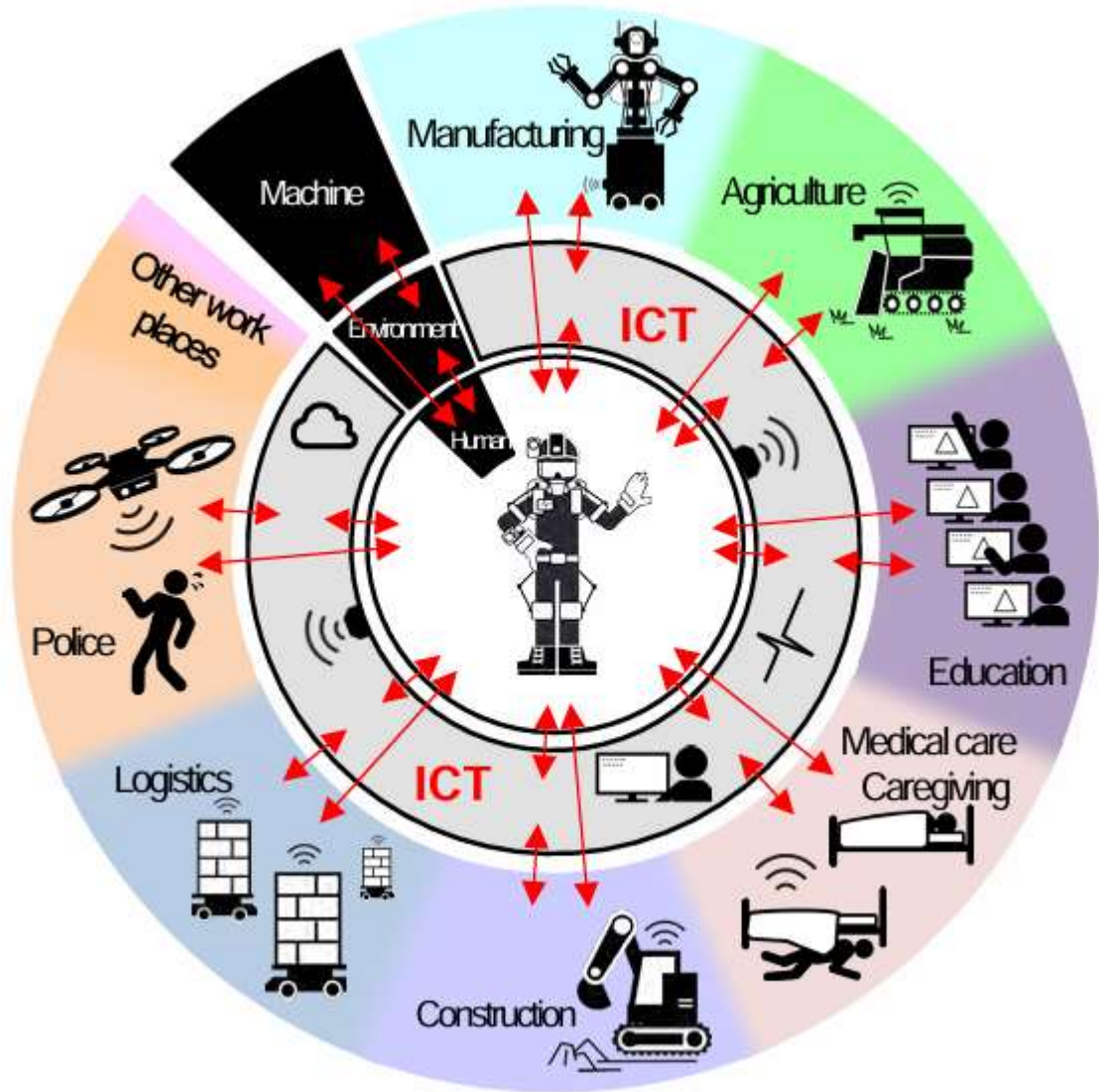
過去の Cambridge Gazette はネット上で見ることが出来、ダウンロードも出来ます。ネット上でキャンニングローバル戦略研究所のウェブサイトに行き、そこで栗原のコラム・論文の欄をクリックして頂ければ、バックナンバー全てを見ることが出来ます。

Jun KURIHARA

Research Director, Canon Institute for Global Studies

Kurihara.Jun@gmail.com

Figure 1 The Role Played by Robots: Increasingly Important and Ubiquitous
図1 ロボットが果たす役割: 次第にあらゆる所で重要に



Source: Fujita, Toshihiro (藤田敏弘), "Spread Information to the World regarding A Holistic Approach to Collaborative Safety (協調安全のホリスティックアプローチの世界への発信)," Institute of Global Safety Promotion (IGSAP) and Global Initiative for Safety, Health & Well-being @EXPO2025 and Beyond, June 2024.

Figure 2 Vision Zero Journey
 図2 Vision Zero (職場における安全・健康・ウェルビーイングの向上)に関連した活動の現在、過去、そして未来



Source: Fujita, Toshihiro (藤田敏弘), “Spread Information to the World regarding A Holistic Approach to Collaborative Safety (協調安全のホリスティックアプローチの世界への発信),”
 Institute of Global Safety Promotion (IGSAP) and
 Global Initiative for Safety, Health & Well-being @EXPO2025 and Beyond, June 2024.